

## I. 2021年度地域連携活動経費による活動報告

### 1. 学生カフェプロジェクト

総合経営学部観光ホスピタリティ学科 白戸 洋

#### (1)活動計画

2021年度は、2020年度に実施できなかった事業、特に高大連携に力を注ぎ、高校生と大学生が連携した活動として展開する計画である。また、新たな動きとして地域課題研究の履修者を中心とした本学学生が、他大学や高校生を巻き込んだ新たな地域づくりの学習・実践を目指す活動を開始しており学生カフェへの参加はより拡がることが期待される。また高齢化等を背景に地域の居場所や交流拠点としてのカフェの役割が重要となっており、2021年度においては、同様のニーズがある他地区への波及を促すため、試験的に駅西地区のいばらん亭等でも事業化を図りたい。

本事業は毎年の積み重ねによってより地域の受容と理解が進み、地域住民を巻き込んだより幅広いまちづくり活動に発展することが期待されるとともに、本学の象徴的な地域連携活動として進化することが期待される。また今後はポストコロナの時代に予想される社会や地域のあり方を踏まえた新しい事業展開が必要となり、地域の状況に即応した事業のあり方を模索していく予定である。なお上土における活動は、本学の広報媒体はもとより外部の様々な媒体によって情報の発信がなされている。

#### (2)活動内容

2021年度もコロナ感染予防の観点から地域での活動が多く制限を受けたものの、感染状況が改善した時期に集中的な取り組みを行うことで2年ぶりに具体的な活動が展開できた。

##### ①カフェを拠点としたまちづくり事業

カフェを拠点としたまちづくり事業は、ゼミ活動を中心として約20回に亘り実施された。特にコロナ禍で苦境に立たされた商店街を活性化させるために①地域の資源である井戸水を活用した商品開発の取り組み、および②大正ロマンを標榜する商店街の歴史を掘り起こし歴史まちづくりを展開する取り組みが実施された。

井戸水を活用した商品開発の取り組みは、東門の

井戸の地下水を活用してサイダーなどを製造し商店街の飲食店において新しいメニューとして活用する事業で、今年度はニーズ調査や試作などを実施した。ポストコロナにおいて観光客や若者、女性などの新しい顧客を獲得するうえで地域の素材を活かした商品の開発を2022年度中盤までに行う予定である。

歴史まちづくりの取り組みでは、戦後の商店街の歴史を関係者へのヒアリングなどから明らかにして街の歴史に触れながら散策できるマップの作成を実施中である。居場所づくりのモデル事業としてカフェを他地区において設置する活動についてはコロナ禍によって実施できなかった。

##### ②カフェを拠点とした高大連携事業

カフェを拠点とした高大連携事業では、毎年実施されていた飯田東中学校や飯田OIDE長姫高校のフィールドワークが中止になったものの、南安曇農業高校の生徒による販売実習や女鳥羽川の草刈りなどのまちづくり活動への参加は再開され、対面での地域との交流も行うことができた。また3年ぶりに井上百貨店において開催された高校生による合同販売会「デパートサミット」に合わせた高校生と大学生の販売プロモーションの取り組みも行われた。

他大学や高校生を巻き込んだ新たな地域づくりの学習・実践を目指す活動については対面での実施はできなかったものの、連続学習会への東北公益文科大学や日本大学のオンラインでの参加が実現し、今後の展開のきっかけづくりができた。

#### (3)活動の成果

コロナ禍によって過去2年間ほとんど実施できなかった上土における学生のまちづくり活動が、様々な制限の中で再開されたことにより、学生と地域が協働してポストコロナにおけるまちづくりのリスタートを切ることができた。2021年度はコロナの感染が落ち着いた11月後半から再び感染が広がった2022年1月中旬までの2か月間に、地域に学生が出掛け集中的に活動を行ったが、地域の協力もあり十分な進捗がみられた。活動の開始が遅れたこともあり、年度



内に予定していたパンフレットの製作などの具体的な成果品に結びつかなかったものの、2022年度の活動に向けて十分な調査や準備ができた。

学生が直接参画したまちづくりが可能となったことで、上土地域のまちづくりは大きく進展した。11月には長年の懸案だった松本電気館をまちづくり協議会で借り受け、「松本建築芸術祭」などに活用することで全国的に上土のまちづくりを発信することができた。また2022年に公開される上土周辺でロケーションが行われた映画によって知名度も飛躍的に上

がっており、松本城から中町や繩手通りへの通過点であった上土が、その景観や歴史などの魅力に触れる観光拠点として注目をされている。今後新しい映画の撮影や松本電気館の観光拠点としての活用などが検討されており、松本の個性あるまちとして期待されている。

#### (4) 共同活動者

専門研究受講者(向井・増尾・白戸・畑井ゼミ)を中心として取り組んだが、社会活動受講者(2年生)、支援会「ゆにまる」に参加する学生及び高大連携に取り組む高校関係者や高校生とも協働して実施した。また、本活動においては、上土商店街振興組合、上土町会、中央地区地域づくりセンター、巾上西町会、田川地区地域づくりセンターにも地域の側からの協力をいただきながら、活動を進めた。

#### (5) 成果の公表(活動発表・論文執筆等)

2022年9月をめどに2021年度の活動の成果としてまちの歴史を踏まえた魅力を紹介するマップや、井戸水を活かした新商品を完成させる予定である。また上土商店街振興組合50周年記念式典において2021年度のカフェプロジェクトについて発表を行うとともに連続学習会においてもその成果について発表を行った。